

遠軽信用金庫の事務センター設置

ポイント

- 遠軽信用金庫は、営業店業務の効率化および人員の適正化を図るため、旭川・北見・札幌の3ブロック中核店舗に事務センターを開設した。
- 同センターは本部組織の一部であり、ブロック内の後方支援やメール便、不動産担保実査などに加え、営業店への応援人員の派遣も行う。
- 同センターの陣容には職員の他、元職員の再雇用、時短パートが多く、業務の繁忙や一人ひとりのライフスタイルに合わせて柔軟な勤務シフトが組まれている。
- 同金庫では、同センター稼働に伴い営業店の負荷が軽減され、少人数による店舗運営を実現できたと評価する。

1. 事務センターの開設

北海道紋別郡遠軽町に本店を置く遠軽信用金庫（**図表1・2**）は、2021年4月、営業店業務（事務）の効率化および人員の適正化を図るため、本店を構える遠紋ブロック以外の3ブロック（旭川・北見・札幌）に事務センターを開設した。同金庫は本店所在地の遠軽町から札幌市内店舗まで道路距離が250kmあるなど、広域な店舗網を有する。そのため全営業店の業務を本部1か所に集約するのに馴染まない面があった。特に営業店から急な応援要請が生じた場合、本部から職員を派遣することが困難であり、機動力のある応援体制の整備が必要だと考えていた。

そこで同金庫は、遠紋ブロック以外の旭川・北見・札幌の3ブロックに事務センターを開設し、2021年度から運用することにした。なお、遠紋ブロックについては本部各部が事務センターの役割を担う扱いである。

（図表1）同金庫の概要（24年度末）

本店所在地	北海道紋別郡遠軽町
創 立	1950年7月19日
預 金 残 高	3,875億円
貸 出 金 残 高	1,868億円
店 舗 数	24店舗
役 職 員 数	191人

（図表2）本店・本部の外観



（備考）図表1・2とも信金中金総研作成・撮影

2. 事務センターの仕組み

同金庫の事務センターは本部組織の位置付けであり、センター長は専務理事もしくは常務理事が務める。ただしセンター長の有する決裁権限などは該当ブロックのブロック長に委任可能である。

設置場所は、旭川事務センターが同金庫旭川支店2階、北見事務センターが同金庫北見支店2階、札幌事務センターは同金庫中央支店2階となる。

3. 業務内容

事務センターの業務内容は、ブロック内の後方支援やメール便、不動産担保実査などに加え、営業店への応援人員の派遣と多岐に亘る（図表3）。なお札幌事務センターについては同金庫中央支店5階の役職員宿泊施設の管理や、札幌ブロック店舗の維持管理も担当するため、他の2センターと業務内容が一部異なる。

事務センターの陣容は同金庫の職員の他、元職員の再雇用、時短パートで構成され、常時数人が勤務している。週5日40時間勤務のような固定的な勤務形態ではなく、業務の繁閑や一人ひとりのライフスタイルを考慮したシフト制を組む。そのため事務センターに勤務する元職員にとっても働きやすい職場とされる。なお、同センターのメンバーは元職員が中心のため、営業店への応援派遣を行いやすいといったメリットを有する。

（図表3）事務センターの業務内容

該当センター	業務内容
3センター共通	メール便の持ち込み、伝票チェック、伝票編綴、不動産担保の実査、決算書登録、アパートローン収支計画・実績対比表入力、抵当権付住宅ローン判定作業、アパートローン各種指標入力作業、自己査定資料の作成、保存文書管理システム運用作業、取引照会稟議申請に係る資料作成、相続稟議申請に係る資料作成、所在不明等顧客管理に係る資料作成、営業店への応援人員派遣、その他センター長が必要と認めた作業
札幌事務センター独自	日銀文書の持ち帰り、中央支店5階宿泊施設の運営管理、札幌ブロックの車両清掃、札幌ブロック営業店の植木剪定・冬囲い、札幌ブロック営業店の窓ガラス清掃、不動産情報登録

（備考）同金庫資料より信金中金総研作成

4. 今後の展開

同金庫では、事務センター稼働に伴い営業店の負荷が軽減され、少人数での店舗運営を実現できるようになったと評価している。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。